

**平成31年度**  
**劇場・音楽堂等機能強化推進事業**  
**(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)**  
**成果報告書**

団 体 名	公益財団法人びわ湖芸術文化財団・滋賀県立文化産業交流会館	
施 設 名	滋賀県立文化産業交流会館	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	12,796	(千円)
公演事業	7,447	(千円)
人材養成事業	2,295	(千円)
普及啓発事業	3,054	(千円)





(3) 平成31年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	滋賀県次世代創造発信事業 古典芸能キッズワークショップ	◆令和元年10月 ～令和2年2月の間 各13回 ◆発表会：2月16日(日)	◆演目：箏部門：「ロバサン」、「春の光」 ほか 日本舞踊部門：「絵日傘」、「さくら さくら」、長唄「藤娘」◆講師：箏部門 田 中久美子、橋本桂子、田中千鶴、原菜里 日本舞踊部門：花柳風春、花柳風弥	目標値	各部門 20名
		滋賀県立文化産業交流会館 小劇場・練習室		実績値	箏 23名 日本舞踊 20名
2	滋賀県次世代創造発信事業 アートのじかん	◆平成31年4月 ～令和元年7月 (アーティスト研修)、 令和元年10月 ～令和2年2月 (学校派遣18校)	◆アーティスト研修、模擬アウトリーチ ◆主な派遣アーティスト：浅川いずみ、 Lapin：吉延佑里子・楳山さやか、 チームおちやのみ：大石橋輝美・吉田周 平・西谷夏、おばんざい：佐々木涼輔・ 寺井優花・藤井夢音、Chao：中井萌・ 大塚真帆、Pecora：松田杏子・竹 内唯・工藤沙ゆり、若井亜妃子、ゆらぎ： 伊藤志野・岩本みち子	目標値	学校派遣 20校
		滋賀県立文化産業交流会館 小劇場・練習室  県内各小中学校、 特別支援学校ほか		実績値	オーディション 参加者：6組(16 名)、研修参加 の派遣アーティ スト：8組(延べ 86名)、公開研 修：2名、公開ブ レゼンテーショ ン：2校2名、 学校訪問の参加 者数：991名
3	【新】滋賀県次世代創造発信事業 箏曲ジュニアアンサンブル	◆令和元年10月 ～令和2年2月の間8回 ◆発表会：2月16日(日)	◆演目：「久遠」◆講師：片岡リサ	目標値	5名
		滋賀県立文化産業交流会館 小劇場		実績値	6名
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

#### 自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

当館は、豊かな自然や暮らしの中で生まれ、受け継がれてきた、湖国滋賀の文化的資産に様々な角度から光を当て、県ゆかりのアーティスト等と優れた文化芸術事業を展開することをミッションとして掲げている。

公演事業では、明治期に長浜市で栄えた芝居小屋「長栄座」を会館イベントホール内に再現し、近江の地酒をテーマにした邦楽公演『音楽巡礼～和楽器と歌でめぐる湖国滋賀～』と、令和となって初めて新年を迎えることから『祝ふ令和 動物の芸能百花』と題した古典芸能公演を実施。両公演の関連企画としてロビーでは滋賀県の地場産物を展示販売する「近江の新しい伝統産業展」を行った。

また、人材育成にも積極的に取り組み、邦楽演奏家を育成する「邦楽専門実演家養成事業」と「長栄座」公演出演アーティストや地域産物にも協力を得ながら「アートマネジメント人材養成講座」を行った。

普及事業では、日本舞踊と箏の部門における「古典芸能キッズワークショップ」を実施するとともに、これまで参加してきた子供たちのレベルアップを目的とした「箏曲ジュニアアンサンブル」を結成。また、学校アウトリーチとしてオーディションに選ばれ研修を受講したアーティストを小・中学校、特別支援学校に派遣する「アートのじかん」にも取り組んだ。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

平成 23 年度より芝居小屋を再現した「長栄座」事業を軸に、古典芸能を身近に感じてもらえるよう創意工夫してきた。昨年度の公演事業では地域の景勝地を元に邦楽組曲を制作発表し、今年度においては地元の名産物をテーマにした新曲を上演し、楽しく洗練された舞台芸術で地域の特色を広く発信することができた。

「邦楽・邦舞専門実演家養成事業」については、邦楽・邦舞の専門的な教育機関が地方には皆無で、地方に在住する意欲的な実演家の深刻な現状に対して、微力ながら公的機関としての支援していくことが本事業目的であり、その期待は大きい。

また、公演事業と合わせて 9 年継続してきた「古典芸能キッズワークショップ」の参加者の意欲的な声から「箏曲ジュニアアンサンブル」を結成できたことは、担い手の育成事業が発展的な成長を遂げたと考える。

そして、「アートマネジメント人材養成講座」では滋賀県立大学と連携し、受講生が中心となって箏のコンサートを企画制作・実践し、予想を超える来場があった。新たなアイデアが結果に繋がったことで、今後、劇場活性化のヒントとして、地域のアートマネージャーの柔軟な発想に期待できる。

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

当館では、県北部における文化芸術の拠点として、また、古典芸能に重点を置いた劇場として、地域や施設の特性を生かし、「1.文化芸術の発信」、「2.文化・芸術資源の発掘と活用」、「3.文化・芸術活動の支援と人材育成」、「4.文化と産業の連携」および「5.活動と交流の拠点創出」の5つの実施方針を目標に掲げて、指標についてもこれまでの実績等を勘案して、発信力と創造力の向上に努めた。成果は次の通りである。

#### 1. 文化芸術の発信

「長栄座」公演では、新しい時代、「令和」の初春を飾る公演として、1日目の「音楽巡礼～和楽器と歌でめぐる湖国滋賀」では、声楽付きの邦楽曲と「湖国滋賀を音楽で巡る」という2つを柱に企画を構成した。日本を代表する山田流箏曲演奏家の萩岡松韻から新進若手演奏家までが出演。「近江の地酒」を題材にした音楽と映像で「地域の暮らしと文化」を表現、また、関西では鑑賞機会の少ない山田流や二十五絃箏の演奏を通して箏曲の新たな魅力を発信することができた。

また、2日目の「祝ふ令和 動物の芸能百花」では、人間と関わりの深い動物の演目に焦点を充て、日本を代表する人間国宝、地歌箏曲家の富山清琴をはじめ、現在の邦楽界を支える中堅世代の芸術家を招聘し、「芸の真髄と可能性」を披露することで古典芸能の持つ魅力をより強く発信でき、次代を担う子どもたちが公演に花を添えることで未来への可能性も示すことができた。新作についても2日間で2演目を上演できた。

#### 2. 文化・芸術資源の発掘と活用

「滋賀の地酒」をテーマにした新作邦楽組曲の公演を開催し、古典芸能への関心を高めるとともに、地元の魅力を再発見する機会となった。また、文化芸術の普及啓発を図る目的で新たな派遣アーティストを発掘・養成して学校へのアウトリーチを実施し、18校(目標20校)の参加を得た。

#### 3. 文化と産業の連携

「長栄座」公演の開催に合わせ、当事業に関わる県内の伝統産業等に焦点を充て、支援を目的に「近江のあたらしい伝統産業展」を開催し、周知することができた。

#### 4. 文化・芸術活動の支援と人材育成

次代を担う小中学生を対象にしたワークショップ(箏・日本舞踊)、中堅演奏家のキャリアアップを目的にした講座や実践研修、アートマネジメント人材養成講座(県立大学と連携)を実施し、地域文化の担い手の育成に努めた。

#### 5. 活動と交流の拠点創出

「邦楽・邦舞専門実演家養成事業」、「古典芸能キッズワークショップ」および「箏曲ジュニアアンサンブル」を実施することで、若手古典芸能実演家や次代の担い手の活動拠点となった。また、多様な事業を実施することで老若男女が集う交流の場を提供できた。

#### 6. 主な指標の成果について

- (1) 公演事業
  - ① 入場率は目標 69% に対し約 63% で少し下回った。
  - ② 顧客満足率は目標 87% に対し約 89% で少し上回った。
  - ③ 情報媒体の掲載数は目標 8 回に対し 9 回で少し上回った。
- (2) 人材養成事業
  - ① 養成事業の参加者が目標 12 名に対し 12 名(邦楽部門)で目標通りであった。
  - ② アートマネジメント人材養成講座の受講者が目標 12 名に対し 4 名で大幅に下回った。
- (3) 普及啓発事業
  - ① 古典芸能キッズワークショップの参加者が目標各 20 名に対し箏 23 名、日本舞踊 20 名とほぼ目標通りであった。
  - ② 箏曲ジュニアアンサンブルの参加者が目標 5 名に対し 6 名で少し上回った。

#### (参考)

助成対象事業のアンケートによる顧客の動向と傾向について

助成対象事業 パブリシティ効果(当財団調べ)

長栄座公演 ¥9,953,070 アートマネジメント人材養成講座 ¥285,828

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。  
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

#### ■公演事業（「長栄座」新春公演）

前年度の構想を経て実施該年度においても、打合せを重ねて公演に臨んだ。事業の性質上、通年ベースでの事業制作期間となるが、概ね計画どおりに進められた。

また、今回は、令和に因んだ邦楽アンサンブル作品「鳥獣戯曲」（作・編曲：野村祐子）や近江の地酒にインスピレーションを得た新作「近江の地酒スイーツ紀行」（作：池上眞吾）と2作の初演も控えていたことから例年に増して精緻な打合せ、制作進行が必要であった。

#### ◆収入

一般の鑑賞者を対象とした有料公演自体が十分、認知されていないジャンルということもあり、入場料を安価に抑え、出来るだけ幅広い年代の方に来場いただける様、積極的なPR活動が必要である。ついては、会館内で制作発表（会館内としては初）を実施し、マスメディアを介した情報発信に努め、記事数目標を達成し、さらに、初めて地元NHK放送局で出演者をゲストに迎えた形で事業周知も行って積極的な広報活動に取り組んだが、収益率は例年のレベルにとどまった。

#### ◆支出

出演者をはじめとする関係者に誠意を持って交渉し、ほぼ申請どおりとなった。分野の特性上、デジタル化等で効率を図ることが難しい面もあるが、スケジュールの組み方等を更に工夫し効率性を高めることとした。また、当該事業（2公演）の事業費運用率（支出実績額/支出予算額）は113%となり、変更率（100%±20%）をクリアしている。

#### ■人材養成事業（「邦楽・邦舞専門実演家養成事業」）

単なるレッスンに終わることなく、「長栄座」公演への出演や、別途、成果発表公演を実施し、概ね計画通りに進められた。効率性という点では、現状より、稽古期間を集中して効果を向上させることも検討していくことが必要と思われる。

#### ■人材養成事業（「アートマネジメント人材養成講座」）

昨年度に引き続き県立大学との合同講座として実施した。効率性を鑑み、事業期間については、講座の回数はそのままに期間を昨年度よりも2ヶ月短縮して3ヶ月程度に圧縮して臨んだ。また、経費の面では、昨年度の経験も鑑み、関西圏で実績のある講師や当財団が管理運営するびわ湖ホールからも職員を講師として起用し、効率性を図り、経費節減にも努めた。

人材養成事業（2事業）の事業費運用率（支出実績額/支出予算額）は65%となり、変更率（100%±20%）をクリアできなかったが、全体経費の節減に努めたという点からすると好ましい傾向でもある。

#### ■普及啓発事業（「古典芸能キッズワークショップ」）

当初予定のスケジュールで進められた。昨年度まで9月から2月まで実施していた稽古期間を11月から2月までに集中して実施することで中だるみをなくし、緊張感を持続させる効果が得られ効率化が図れた。

#### ■普及啓発事業（「アートのじかん」）

学校現場へ派遣するアーティストのオーディションに始まり、さらに、アウトリーチ活動のノウハウに長けた講師の指導を事前に受けてはじめて成立するスタイルとしているため、派遣アーティストのクオリティ確保、学校現場での良質のアウトプットは達成しているといえる。

訪問学校数では、学校との調整を精緻に重ね概ね目標を達成できたといえる。

上の2事業および「箏曲ジュニアアンサンブル」の普及啓発事業（3事業）の事業費運用率（支出実績額/支出予算額）は63%となり、変更率（100%±20%）をクリアできなかったが、全体経費の節減に努めたという点からすると好ましい傾向でもある。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

#### ・視点1

（第一線の監修者を据えたメリット）

芝居小屋「長栄座」事業には、平成 26 年度から事業監修および舞台芸術アドバイザーとして京都市立芸術大学名誉教授の久保田敏子（文化庁文化財第 4 専門調査会委員、文化庁芸術祭審査委員を歴任。平成 25 年度京都市文化功労者表彰）を迎えている。日本の古典芸能全般を網羅する学識経験の豊富さでは、他の追随を許さない第一級の研究者で、芸術面の諸判断、広範な人脈によるキャスティングが可能である。

（多目的で自由な劇場空間を活用）

2,000 人収容の当館イベントホールは、客席が可動席で収納することができる。そこに明治 16 年から昭和 33 年まで滋賀県長浜市に実在した芝居小屋「長栄座」をモデルにした仮設の芝居小屋を期間限定で復元し、この「癒しの芸能空間」＝「長栄座」で日本の古典芸能の奥深い魅力を発信するプロジェクトを平成 23 年度から継続してきた。

また、公演当日に、ロビーには長浜市の和楽器絃の製造会社をはじめ、滋賀県内の伝統産業が展示ブースに出展し、匠の技を現代に活かす姿をピーアールする貴重な機会としている。

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

### ・視点2

（具体の公演での成果）

「長栄座」公演の舞台公演制作の究極のねらいは、上演作品の地域ブランド化にある。

地域に固有の資産である自然景観、文化財、名産品、民話等を舞台作品として上演する過程で新たな物語を紡いでいく作業が「楽曲の創作」と捉えている。創作曲が繰り返し再演されることで地域に根付き、地域住民の誇りや喜びとなっていくことを目指している。

1月18日（土）「長栄座」新春公演『音楽巡礼』では、東京藝術大学教授で山田流箏曲演奏家の萩岡松韻が山田流箏曲の名曲である「近江八景」を初披露した。また若手演奏家の日原暢子によって二十五絃箏曲「琵琶行」を披露し、これまでに鑑賞する機会がなかった山田流や二十五絃箏に焦点をあてることを通じて箏曲の新たな魅力を発信することができた。また、宮城道雄の声楽付きの邦楽曲と湖国滋賀を音楽で巡るという2つを柱に企画を構成し、滋賀の地酒から垣間見える地域の暮らしと文化を音楽と映像で表現。池上眞吾（作曲家、東京藝術大学邦楽科非常勤講師）による新作邦楽組曲「近江の地酒スイーツ紀行」を2楽章まで完成し、次年度に全6楽章を集大成させるという構想の前編を実現することができた。びわ湖ホール声楽アンサンブルソロ登録メンバーである二塚直紀氏も出演した。

また、翌1月19日（日）『祝ふ令和』公演では、古来から人間と深い関係を有する動物をテーマにした古典芸能の演目を集め、5つの分野を網羅した企画として再構成した。人間国宝で地歌箏曲演奏家の富山清琴をはじめ、正絃社二代家元で箏曲演奏家の野村祐子、落語家の林家染二、能楽師の井上松次郎、片岡リサ（箏、大阪音楽大学特任准教授、平成30年度文化庁芸術祭優秀賞受賞）、永廣孝山（尺八、平成15年度文化庁芸術祭新人賞受賞）などベテランから新進演奏家までを迎え、高品質で娯楽性に富む演目を披露することで令和の初春を祝うとともに地域の文化活動者の意識向上に貢献した。また、鑑賞者には古典芸能の新たな楽しみ方を提示することができた。

（人材養成事業での成果）

「邦楽・邦舞専門実演家養成事業」では、日本の邦楽界を代表する箏奏者野村祐子（正絃社二代家元・愛知県立芸術大学非常勤講師）と池上眞吾（作曲家・東京藝術大学非常勤講師）を講師に迎え、中堅・若手の邦楽演奏家（箏・三味線・十七絃）の技術向上を目的とし、およそ半年間、月に2～4回の稽古を重ね、加えて、受講者の創造性を促す基礎知識を育むため、久保田敏子（長栄座事業監修）の講義も実施した。修了演奏会への出演で経験を積み、プロ演奏家としてのキャリア形成を図った。

「アートマネジメント人材養成講座」では、昨年度に引き続き、従来の座学型から企画制作から公演の運営までを一貫して受講生が担う実践型に移行した。また、2年目となる当館と県立大学地域共生センターとの連携によって、大学の講義「地域デザインD」（テーマ：「アートによるまちづくり」）としてカリキュラム化された。延べ7日間かけて、受講者は、専門家の指導を受けながら研鑽し、地域の文化施設で成果発表の場を迎えた。受講者は、地域住民、大学生、ホール関係者であったが、立場の異なる人々が出会い、公演制作のプロセス現場を通じ、アートとまちづくりの様々な可能性を追求することで、実演芸術の振興と地域の文化芸術の発展の双方に寄与する好機となった。

（普及啓発事業での成果）

「古典芸能キッズワークショップ」において箏と日本舞踊の2コースで小学生を対象に約4ヶ月間にわたって技術や礼儀作法などを実技指導し、成果発表会を実施。さらに上達を目指す子どもたちには、「箏曲ジュニアアンサンブル」コースを新設することで小学生から一般まで一貫して箏が学べる環境が整備されてきている。

講師には、片岡リサ（箏、大阪音楽大学特任准教授）ほかを迎え、将来の湖国滋賀の邦楽界をリードできる人材育成に努めている。

「アートのじかん」では、花田和加子（桐朋学園芸術短期大学非常勤講師、(一財)地域創造コーディネーター）の指導のもとで、学校派遣アーティストへの研修を実施し、様々な技能についての研鑽を積んだ。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

当財団は、滋賀県文化振興条例および滋賀県文化振興基本方針に則り、舞台芸術をはじめとする芸術文化を振興する公益財団法人として、文化産業交流会館およびびわ湖ホールの県立2館の劇場を有機的に活用して、様々な分野と連携を図りながら、県と密接な関係を基盤に運営を行っている。

また、当財団は、滋賀県文化振興基本方針（第2次）の基本目標「滋賀の文化力を高め、発信することで地域が元気になっていく姿」に向けて、中期経営計画（2017～2020年）を策定し、その方針を推進するための経営戦略、および具体的な事業計画と収支計画に基づき、定量的・定性的な目標の達成に向け、進行管理を行っている。

文化産業交流会館においては、「県北部の文化振興を担う拠点として賑わいの創出」を目標に掲げ、市町ホール、文化活動者・団体、企業等と連携しながら、施設や地域の特性を活かし、県立の劇場・音楽堂としての使命を果たすべく、中期経営計画に基づき、個別事業まで評価・検証を行い、財団の役職員で構成する運営推進会議等で報告している。

組織については、職員の年齢構成や専門性等、将来の執行体制を踏まえ、計画的な正規職員の採用に努め、滋賀県の文化施策を推進する専門家集団として、組織体制の強化を図っているが、職員の高齢化が懸念となっている。また、非正規職員の給与等の処遇改善を行い、組織の活性化につなげている。

人事については、人事異動によりびわ湖ホール職員を文化産業交流会館に配置し、自主制作事業や広報営業の内容充実、および組織の活性化を図っている。また、人事評価制度を導入し、職員自ら設定した目標の達成に向けて、職員が発揮した能力および挙げた業績を把握・評価することにより、組織の使命や目標の達成ならびに職員の育成や能力開発等につなげている。

加えて、OJTや外部講師による研修等を実施するとともに、外部研修会へも積極的に参加させ、職員の専門性を高め資格の取得やコンプライアンス意識の向上に努めている。

財源確保については、平成31年度から財団に営業部を新設し、県域にわたる営業活動を文化産業交流会館およびびわ湖ホールと包括的に行っている。文化産業交流会館では、イベントホール（2,000人収容）の多目的機能を活かし多彩な事業を展開し、得られた収益を特定費用準備資金に積み立て、記念事業等に充てている。また、公益法人、民間からの補助金等の獲得や、公益財団法人の優遇税制を活かした「夢キラリ文化基金」を設け、「伝統芸能」「次世代育成」等の事業への寄付を募るなどの取り組みを積極的に行っている。

ネットワークについては、芝居小屋「長栄座」新春公演をはじめ自主制作事業において、産業・経済界との連携強化に努めている。具体的には、同公演の新作邦楽組曲「近江の地酒・スイーツ紀行」では滋賀県酒造組合と、「近江のあたらしい伝統産業展」では邦楽器の絃製造会社や近江上布の麻織物メーカー等、「ビジネスカフェ」では滋賀県産業支援プラザや文化・経済フォーラム滋賀等と連携し事業を展開している。

加えて、「滋賀県アートコラボレーション事業」について、市町や民間の劇場・音楽堂等と協働で、多様な文化事業を展開し、職員相互のノウハウを提供し合い資質を高めるとともに、地域の活性化の一翼を担っている。また、小中学校等でのアウトリーチ「アートのじかん」について、県教育委員会と共催し、学校と綿密な打ち合わせを行い、内容の充実に努めている。

管理運営においては、施設利用者へのサービス向上はもとより、開館から31年が経過した施設について、県の長期保全計画に基づき、吸収式冷温水発生機更新工事（令和2年6月完了予定）および高圧機器（モールド変圧器）更新工事を行うなど、お客様に快適で安全・安心してご利用いただけるよう施設の維持管理に努めている。